

お坊主の言を聞きまはさうし、
 ところ they do not dispute の they が 何うなる、
 どうしてこの意味が通せぬ、何處へ何處へ
 流るにせぬ分つて来しやう其心持する
 のことか、
 ひまわりとのやうに對峙を乞ふ
 置んでは、
 政府の役人と習ふものと習はれし所ち本文
 の意味は (They は 歌、
 此は人々と教育するものか或は先法社説と改
 正するべきは、
 此は 我々の互更の事とんよ、彼等は定論せし
 ところを誤るゝもの、
 能く心付ておて、
 かくんちるすまは、
 のへお人君では、
 御事等はさういふ言は、

特別
 14
 2090
 51(40)



其希世なる所であらう、花んでおる、ヘルゼン
が言つてゐるが、十二月竟が此を子流し通し其
くちつてかゝ一所ち皆捕へられて刑をなせられて
かゝ我社会の平準は低くたつてツマナメ人
間が一流の人となつて徹くやうなたつて来と
と言つてゐるが、已もぬれおふごとく思ふ、シ
カレハ日はヘルゼン一流の世と云う、又
の如き人物も、(ぬきと云つて Novel の如き人物
ゆと利やすやうなたつて、心細いこと)

Nabatof 「^の漢の三つはすくとも官史の絶
はなきまじ、到底根絶やしはされぬ」

Krit. Mem 「^の文(意)とわけのやう、根絶やし
も出来ぬのい、—— 漢語は三語は事子

差なし、それより一同戮力同心で Mem 「^の文(意)と
一語子にばすべし」

Mek. 「^の文(意)と赤人なり、それは解り非語い
Krit. 「^の人(名)ものか、今より ^の彼(名)の致ておす如き
水道をおす者は人となは謂ふべからず、之に
あつたは、^の後(名)と云ふは、^の一(名)に於て
ゆめいん 長